

第1章 総則

(目的)

第1条 金沢大学大学院(以下「大学院」という。)は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。

2 大学院のうち、専門職大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とする。

3 大学院の課程は、修士課程、博士課程及び専門職学位課程とし、その目的は次のとおりとする。

(1) 修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。

(2) 博士課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

(3) 専門職学位課程は、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とする。

4 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、研究科、専攻及び課程において別に定める。

(研究科の種類及び講座)

第2条 大学院に、次の研究科を置く。

教育学研究科

人間社会環境研究科

自然科学研究科

医学系研究科

法務研究科

2 法務研究科は、専門職大学院とする。

3 自然科学研究科及び医学系研究科に、別に定めるところにより講座を置く。

(研究科の専攻及び課程)

第3条 研究科に置く専攻及びその課程の別は、次のとおりとする。

研究科名	専攻名	課程の別
教育学研究科	教育実践高度化専攻	修士課程

人間社会環境研究科	人間文化専攻，社会システム専攻， 公共経営政策専攻	博士課程(前期2年)
	人間社会環境学専攻	博士課程(後期3年)
自然科学研究科	数物科学専攻，電子情報工学専攻， 機能機械科学専攻，人間・機械科学 専攻，物質化学専攻，物質工学専攻， 地球環境学専攻，社会基盤工学専 攻，生物科学専攻	博士課程(前期2年)
	数物科学専攻，電子情報科学専攻， システム創成科学専攻，物質科学専 攻，環境科学専攻，生命科学専攻	博士課程(後期3年)
医学系研究科	医科学専攻	修士課程
	脳医科学専攻，がん医科学専攻，循 環医科学専攻，環境医科学専攻	博士課程
	創薬科学専攻	博士課程(前期2年)
	保健学専攻	博士課程(前期2年)
博士課程(後期3年)		
法務研究科	法務専攻	専門職学位課程(法科大学院)

2 医学系研究科の脳医科学専攻，がん医科学専攻，循環医科学専攻及び環境医科学専攻は，医学を履修する4年の博士課程(以下「医学博士課程」という。)とし，医学系研究科の創薬科学専攻は，博士課程前期2年の課程(以下「博士前期課程」という。)とし，医学系研究科の保健学専攻，人間社会環境研究科及び自然科学研究科は，5年の博士課程とし，博士前期課程及び後期3年の課程(以下「博士後期課程」という。)に区分する。

3 法務研究科は，専ら法曹養成のための教育を行うことを目的とする専門職学位課程を置く法科大学院とする。

(研究科の入学定員等)

第4条 各研究科における専攻別の入学定員及び収容定員は，別表第一のとおりとする。

第2章 学年，学期及び休業日

(学年，学期及び休業日)

第5条 学年，学期及び休業日については，金沢大学学則(以下「学則」という。)第36条及び第37条の規定による。

第3章 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第6条 修士課程の標準修業年限は，2年とする。

2 博士課程の標準修業年限は，5年とする。(博士前期課程は2年とし，博士後期課程は3

年とする。)ただし、人間社会環境研究科博士前期課程公共経営政策専攻については、大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第3条第3項の規定に基づく1年以上2年未満の標準修業年限であるコース(以下「短期在学コース」という。)の標準修業年限は、1年とする。

3 医学博士課程の標準修業年限は、4年とする。

4 専門職学位課程(法科大学院)の標準修業年限は、3年とする。

(在学年限)

第7条 修士課程及び博士前期課程には、4年を超えて在学することができない。

2 前項の規定にかかわらず、短期在学コースにおいては、2年を超えて在学することができない。

3 医学博士課程には、8年を超えて在学することができない。

4 博士後期課程及び専門職学位課程(法科大学院)には、6年を超えて在学することができない。

第4章 入学

(入学時期)

第8条 入学の時期は、学則第41条の規定による。

(入学資格)

第9条 修士課程、博士前期課程及び専門職学位課程(法科大学院)に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第83条に定める大学を卒業した者

(2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者

(3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者

(4) 我が国において、外国の大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定する当該課程を修了した者

(5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者

(6) 文部科学大臣の指定した者

(7) 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者

(8) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学の大学院に入学した者であって、当該者を金沢大学(以下「本学」という。)の研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの

(9) 外国において学校教育における15年の課程を修了した者、我が国において、外国の大学における15年の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付

けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定する当該課程を修了した者、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者であって、本学の研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めたもの

(10) 本学の研究科において、個別の入学資格審査により、第1号に定める者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したもの

2 前項の規定にかかわらず、学校教育法第83条に定める大学に3年以上在学した者であって、本学の研究科が定める単位を優秀な成績で修得したと認めたものは、修士課程、博士前期課程又は専門職学位課程(法科大学院)に入学することができる。

第10条 医学博士課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 学校教育法第83条に定める大学(医学、歯学又は獣医学の課程に限る。)を卒業した者

(2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者(医学、歯学又は獣医学を履修した者に限る。)

(3) 外国において学校教育における18年の課程(最終の課程が医学、歯学又は獣医学に限る。)を修了した者

(4) 我が国において、外国の大学における18年の課程(最終の課程が医学、歯学又は獣医学に限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定する当該課程を修了した者

(5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程(最終の課程が医学、歯学又は獣医学に限る。)を修了した者

(6) 文部科学大臣の指定した者

(7) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学の大学院(医学、歯学又は獣医学を履修する博士課程に限る。)に入学した者であって、当該者を本学の医学系研究科において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの

(8) 外国において学校教育における16年の課程(最終の課程が医学、歯学又は獣医学に限る。)を修了した者、我が国において、外国の大学における16年の課程(最終の課程が医学、歯学又は獣医学に限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定する当該課程を修了した者、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程(最終の課程が医学、歯学又は獣医学に限る。)を修了した者であって、本学の医学系研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認めたもの

(9) 本学の医学系研究科において、個別の入学資格審査により、第1号に定める者と同

等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したもの

- 2 前項の規定にかかわらず、学校教育法第83条に定める大学の医学、歯学又は獣医学を履修する課程に4年以上在学した者であつて、本学の医学系研究科が定める単位を優秀な成績で修得したと認めたものは、医学博士課程に入学することができる。

第11条 博士後期課程に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (3) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定する当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学（以下「国際連合大学」という。）の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 本学の研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したもの

（入学の出願）

第12条 大学院に入学を志願する者は、入学願書に別表第二に定める検定料及び別に定める書類を添えて、願出なければならない。

（入学者の選抜）

第13条 前条の入学を志願する者については、別に定めるところにより選抜を行う。

- 2 法務研究科の入学者の選抜に当たっては、入学者の適性を適確かつ客観的に評価し、法務研究科が別に定めるところにより、多様な知識又は経験を有する者を入学させるものとする。

（入学手続及び入学許可）

第14条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、所定の書類を提出するとともに、別表第二に定める入学料を納付しなければならない。ただし、入学料の免除又は徴収猶予を受けようとする者は、入学料に代えてその免除又は徴収猶予の申請書を提出しなければならない。

- 2 学長は、前項の入学手続を完了した者（入学料に関しては、その免除又は徴収猶予の申請書を受理された者を含む。）に、入学を許可する。

（再入学、転入学及び編入学）

第15条 次の各号のいずれかに該当する者があるときは、選考の上、相当年次に入学を許可することができる。

(1) 大学院を退学した者(第41条に定める退学者を除く。)又は除籍された者で、再び同一の研究科に再入学を志願するもの

(2) 他の大学の大学院に在学している者で、大学院へ転入学を志願するもの

(3) 他の大学の大学院を修了した者又は退学した者で、大学院へ編入学を志願するもの

2 前項の規定により入学した者の在学年限は、その者が属する年次に対応する残余の標準修業年限の2倍の年数を超えることができない。

3 第12条, 第13条第1項及び前条の規定は、第1項の規定により入学する場合に準用する。

4 再入学, 転入学及び編入学に関し必要な事項は、研究科において別に定める。

(転専攻)

第16条 学生が所属研究科内の他の専攻に転専攻を志願するときは、当該研究科の定めるところにより、研究科長の許可を得なければならない。

(再入学等の既に履修した授業科目等の取扱い)

第17条 前2条の規定により、入学等を許可された者の既に履修した授業科目及び修得した単位数の取扱いについては、研究科において決する。

(宣誓)

第18条 入学を許可された者は、別に定めるところにより、宣誓をしなければならない。

第5章 教育方法等

(教育課程の編成方針及び教育方法)

第19条 研究科は、教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設するとともに、学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)の計画を策定し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、研究科における専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう配慮するものとする。

3 研究科(法務研究科を除く。)の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行うものとする。

4 法務研究科の教育は、その教育上の目的を達成するために必要な授業科目の授業によって行うものとする。

(授業科目, 単位数, 履修方法等)

第20条 授業科目の内容, 単位数及び研究指導の内容並びにこれらの履修方法は、研究科において別に定める。

2 授業科目の単位の計算方法については、学則第50条の規定を準用する。この場合において、同条第2項中「卒業論文, 卒業研究等」とあるのは「学位論文, 特定の課題についての研究の成果等」と、読み替えるものとする。

(授業の方法等)

第21条 授業の方法については、学則第51条の規定を準用する。

- 2 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合の単位数を計算するに当たっては、その組み合わせに応じ、前条により準用する学則第50条第1項に規定する基準を考慮して、研究科が定める時間の授業をもって1単位とする。
- 3 授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。
- 4 研究科は、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに1年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。
- 5 研究科は、学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(単位の認定)

第22条 授業科目を履修した者に対しては、試験又は研究報告等により単位を与える。

- 2 試験等の成績は、「S」、「A」、「B」、「C」及び「不可」の評語をもって表し、S、A、B及びCを合格とし、不可を不合格とする。ただし、授業科目又は履修形態等によっては、合格を「合」又は「認定」の評語とすることがある。

(教育方法の特例)

第23条 教育上特別の必要があると認められる場合には、研究科は、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

(他の大学院における授業科目の履修等)

第24条 教育研究上有益と認められるときは、研究科は、他の大学の大学院と協議の上、学生に当該大学院の授業科目を履修させることができる。

- 2 前項の規定に基づき修得した単位は、10単位を超えない範囲で、本学の研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 3 前項の規定にかかわらず、法務研究科にあっては、第1項の規定により修得した他の大学の大学院における授業科目の単位については、30単位を超えない範囲で、法務研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。ただし、93単位を超える単位の修得を修了の要件とする場合にあっては、その超える部分の単位に限り30単位を超えてみなすことができる。
- 4 前3項の規定は、学生が、外国の大学院に留学する場合、外国の大学院が行う通信教育による授業科目を我が国において履修する場合及び国際連合大学の教育課程における授業科目を履修する場合について準用する。

(他大学院等における研究指導)

第25条 教育研究上有益と認められるときは、研究科(法務研究科を除く。)は、他の大学の大学院又は研究所等(以下「他大学院等」という。)と協議の上、学生に当該他大学院等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。ただし、修士課程及び博士前期課程の学生については、当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

2 前項の規定により学生が受けた研究指導は、本学の研究科で受けた研究指導とみなすことができる。

(入学前の既修得単位の認定)

第26条 教育研究上有益と認められるときは、学生が大学院入学前に他の大学の大学院又は外国の大学院において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本学の研究科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定により修得したとみなすことができる単位については、転入学等の場合を除き、大学院において修得した単位以外のものについては、10単位を超えないものとする。

3 前項の規定にかかわらず、法務研究科にあっては、第1項の規定により修得したものとみなすことができる単位数は、転入学等の場合を除き、当該研究科において修得した単位以外のものについては、第24条第3項及び第4項の規定により当該研究科において修得したものとみなす単位数と合わせて30単位(第24条第3項ただし書の規定により30単位を超えてみなす単位を除く。)を超えないものとする。

(長期にわたる教育課程の履修)

第27条 学生(短期在学コースに在学する学生を除く。)が職業を有している等の事情により、当該学生に係る標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、当該研究科の教授会等の議を経て、学長は、その計画的な履修を許可することがある。

2 前項に定めるもののほか、長期にわたる教育課程の履修に関し必要な事項は、別に定める。

第6章 課程の修了及び学位授与

(修了要件)

第28条 修士課程及び博士前期課程の修了要件は、当該課程に2年以上在学し、30単位以上で研究科の定める単位数を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

2 博士後期課程の修了要件は、当該課程に3年(法科大学院の課程を修了した者にあつては、

2年)以上在学し、10単位以上で研究科の定める単位数を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

3 前項の規定にかかわらず、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、次に掲げる年数以上在学すれば足りるものとする。

(1) 第1項本文の規定により修士課程及び博士前期課程を修了した者又は第11条(第1項を除く。)の規定により大学院の入学資格に関し、修士の学位若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者にあつては、1年(標準修業年限1年以上2年未満の専門職学位課程を修了した者にあつては、3年から当該1年以上2年未満の期間を減じた期間)以上

(2) 短期在学コースを修了した者及び第1項ただし書の規定により、優れた業績を上げた者として当該課程を修了した者にあつては、当該課程の在学期間を含めて3年以上

4 医学博士課程の修了要件は、当該課程に4年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に3年以上在学すれば足りるものとする。

5 専門職学位課程(法科大学院)の課程の修了要件は、当該課程に3年以上在学し、93単位以上で研究科の定める単位数を修得することとする。

(法務研究科における在学期間の短縮)

第29条 法務研究科(本条及び次条において「研究科」という。)は、第26条第1項の規定により研究科に入学する前に修得した単位(第9条の規定により入学資格を有した後、修得したものに限る。)を研究科において修得したものとみなす場合であつて当該単位の修得により研究科の教育課程の一部を履修したと認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して1年を超えない範囲で研究科が定める期間在学したものとみなすことができる。

(研究科における法学既修者の取扱い)

第30条 研究科は、研究科において必要とされる法学の基礎的な学識を有すると認める者(以下「法学既修者」という。)に関しては、第28条第5項に規定する在学期間については1年を超えない範囲で研究科が認める期間在学し、同条に規定する単位については35単位を超えない範囲で研究科が認める単位を修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定により法学既修者について在学したものとみなすことのできる期間は、前条の規定により在学したものとみなす期間と合わせて1年を超えないものとする。

3 第1項の規定により、法学既修者について修得したものとみなすことのできる単位数は、第24条第3項及び第26条第1項の規定により修得したものとみなす単位数と合わせて30単位(第24条第3項ただし書の規定により30単位を超えてみなす単位を除く。)を超えないものとする。

(学位授与)

第31条 大学院の課程を修了した者には、その課程に応じ、修士若しくは博士の学位又は専門職学位を授与する。

2 前項の学位の授与については、金沢大学学位規程(以下「学位規程」という。)の定めるところによる。

(博士課程によらない学位の授与)

第32条 前条に定めるもののほか、博士の学位は、博士課程を経ない者であっても、学位規程の定めるところにより、学位を授与することがある。

第7章 休学，復学，転学，留学，退学及び除籍

(休学)

第33条 疾病又はその他の事由により、3月以上修学を中止しようとする者は、研究科長の許可を得て、その学期又は学年の終わりまで休学することができる。

2 研究科長は、疾病のため修学に適しないと認められる者に対しては、学長の承認を得て、休学を命ずることができる。

3 休学期間は、在学年限に算入しない。

4 休学期間は、通算して当該課程の標準修業年限を超えることができない。ただし、第2項の休学の期間は、この限りではない。

(復学)

第34条 休学期間中に復学しようとする者は、事由を記し、研究科長に願い出て、許可を得なければならない。

(転学)

第35条 他の大学院へ転学しようとする者は、所定の願書に志望の大学、研究科、専攻及び志望の事由を記し、研究科長を経て、学長の許可を得なければならない。

(留学)

第36条 外国の大学院で学修するため留学しようとする者は、研究科長を経由して、学長の許可を得なければならない。

2 前項の許可を得て留学した期間は、第28条に定める在学期間に含まれることができる。

(退学)

第37条 退学しようとする者は、事由を記し、研究科長を経て、学長の許可を得なければならない。

(除籍)

第38条 学生が次の各号のいずれかに該当するときは、学長は、これを除籍する。

(1) 入学料の免除若しくは徴収猶予を不許可とされた者又は半額免除若しくは徴収猶予を許可された者であって、納付すべき入学料を納付しないもの

(2) 所定の年限に達して、なお修了の認定を得られない者

(3) 授業料納付の義務を怠り督促を受けてもなお納付しない者

(4) 疾病その他の事故により、成業の見込がないと認められる者

(教育研究会議)

第39条 研究科長は、第33条から第38条までの事項について、教育研究会議の長に諮り、実施するものとする。

第8章 賞罰

(表彰)

第40条 大学院在学中に学業の成績、課外活動等の成績に優れた者に対して修了時に表彰を行うことがある。

2 表彰については、別に定める。

(懲戒)

第41条 学生が本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反した行為をなしたときは、学長は、教育研究会議及び教育研究評議会の議を経て懲戒する。

2 懲戒は、学長の命を受け、研究科長がこれを行う。

3 懲戒は、退学、停学及び訓告とする。

第9章 検定料，入学料及び授業料

(検定料等)

第42条 検定料，入学料及び授業料(以下「検定料等」という。)の額は、別表第二のとおりとする。

2 検定料等の徴収等に関しては、学則第72条から第82条までの規定による。

第10章 研究生，科目等履修生，特別聴講学生，外国人留学生及び特別研究学生

(研究生等)

第43条 研究生，科目等履修生，特別聴講学生及び外国人留学生については、学則第83条から第86条までの規定を準用する。この場合において、「学域」とあるのは「研究科」と読み替えるものとする。

(特別研究学生)

第44条 他の大学の大学院の学生で、研究科(法務研究科を除く。)において研究指導を受けようとするものがあるときは、当該大学院と協議の上、特別研究学生として研究指導を受けることを許可することがある。

(検定料等)

第45条 研究生，科目等履修生，特別聴講学生及び特別研究学生に係る検定料等の額は、別表第二のとおりとする。

2 特別聴講学生及び特別研究学生に係る検定料及び入学料は、徴収しない。

3 第1項の規定にかかわらず、特別聴講学生が、国立大学の大学院学生、単位互換協定に基づく公立若しくは私立の大学の大学院学生又は交流協定に基づく外国人留学生であるときは、授業料を徴収しない。

4 第1項の規定にかかわらず、特別研究学生が、国立大学の大学院学生、特別研究学生交流協定に基づく公立若しくは私立の大学の大学院学生又は交流協定に基づく外国人留学

生であるときは、授業料を徴収しない。

第11章 教員組織

(教員組織)

第46条 大学院の授業及び研究指導は、各研究科を担当する教授が行う。ただし、必要があるときは、准教授、講師又は助教が行うことができる。

第12章 運営組織

(運営組織)

第47条 大学院の運営については、学則第27条から第31条の規定により、教育研究評議会、教育研究会議及び研究科会議が審議する。

第13章 連合大学院

(大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所)

第48条 大阪大学大学院に設置される、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連合小児発達学研究所小児発達学専攻(博士課程)の教育及び研究の実施について、本学は、大阪大学及び浜松医科大学と協力するものとする。

附 則

- この学則は、平成16年4月1日から施行する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、旧金沢大学大学院規程による法学研究科法律学専攻及び公共システム専攻、医学系研究科生理系専攻、病理系専攻、社会医学系専攻、内科系専攻、外科系専攻及び分子情報医学系専攻並びに自然科学研究科機械科学専攻、生命・地球学専攻、環境基盤工学専攻、電子情報システム専攻、物質構造科学専攻、機能開発科学専攻、地球環境科学専攻及び数理情報科学専攻は、平成16年3月31日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 別表第一の規定にかかわらず、法学研究科、自然科学研究科及び法務研究科並びに合計欄の収容定員については、平成16年度及び平成17年度は、次の表のとおりとする。
- 平成10年度以前の入学者に係る授業料の額は、第41条第1項の規定にかかわらず、なお、従前の額とする。

研究科名	専攻名		平成16年度			平成17年度		
			修士課程 及び博士 前期課程	博士後期 課程	専門職学 位課程	修士課程 及び博士 前期課程	博士後期 課程	専門職学 位課程
法 学 研 究 科	法律・政策学専攻		15			30		
	従前の専 攻	法律学専 攻	15					
		公共シス テム専攻	5					
	計		35			30		

自然科学 研究科 (博士前期 課程)	数物科学専攻		121			112			
	電子情報工学専攻		67			134			
	機能機械科学専攻		51			102			
	人間・機械科学専攻		40			80			
	物質化学専攻		48			52			
	物質工学専攻		100			106			
	地球環境学専攻		19			38			
	社会基盤工学専攻		48			96			
	生物科学専攻		17			34			
	生命薬学専攻		87			96			
	医療薬学専攻		40			32			
	従前の専 攻	機械科学 専攻	82						
		生命・地球 学専攻	39						
		環境基盤 工学専攻	48						
電子情報 システム 専攻		59							
計		866			882				
自然科学 研究科 (博士後期 課程)	数物科学専攻			13			26		
	電子情報科学専攻			15			30		
	システム創成科学専攻			48			56		
	物質科学専攻			17			34		
	環境科学専攻			22			44		
	生命科学専攻			70			80		
	従前の専 攻	物質構造 科学専攻		29				15	
		機能開発 科学専攻		28				14	
		地球環境 科学専攻		26				13	
		数理情報 科学専攻		32				16	
計			300				328		

法務研究科	法務専攻			40			80
-------	------	--	--	----	--	--	----

合計	1,225	791	40	1,236	819	80
----	-------	-----	----	-------	-----	----

附 則

- この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第一の規定にかかわらず、医学系研究科の収容定員並びに「修士課程及び博士前期課程」及び「医学博士課程、後期3年博士課程及び博士後期課程」の合計欄の収容定員は、平成17年度から平成19年度までは、次の表のとおりとする。

研究科名	専攻名	平成17年度		平成18年度		平成19年度	
		修士課程及び博士前期課程	医学博士課程及び博士後期課程	修士課程及び博士前期課程	医学博士課程及び博士後期課程	修士課程及び博士前期課程	医学博士課程及び博士後期課程
医学系研究科	医科学専攻	15		30		30	
	脳医科学専攻		92		88		84
	がん医科学専攻		119		114		109
	循環医科学専攻		100		96		92
	環境医科学専攻		54		52		50
	保健学専攻	140	75	140	75	140	75
	計	155	440	170	425	170	410

合計	1,251	804	1,266	815	1,266	800
----	-------	-----	-------	-----	-------	-----

- 平成10年度以前の入学者に係る授業料の額については、改正後の別表第二の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則

この規則は、平成17年7月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年12月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成18年4月1日から施行する。

2 第2条第1項の規定にかかわらず，文学研究科，法学研究科，経済学研究科及び社会環境科学研究科は，平成18年3月31日に当該研究科に在学する者が当該研究科に在学しなくなるまでの間，存続するものとする。

3 別表第一の規定にかかわらず，文学研究科，法学研究科，経済学研究科及び社会環境科学研究科の収容定員は，平成18年度から平成20年度までは，次の表のとおりとする。

研究科名	専攻名	平成18年度		平成19年度		平成20年度		
		修士課程 及び博士 前期課程	医学博士 課程及び 博士後期 課程	修士課程 及び博士 前期課程	医学博士 課程及び 博士後期 課程	修士課程 及び博士 前期課程	医学博士 課程及び 博士後期 課程	
人間社会環境研究科	人間文化 専攻	25		50		50		
	社会シス テム専攻	18		36		36		
	公共経営 政策専攻	12		24		24		
	人間社会 環境学専 攻		12		24		36	
従前の研 究科	文学研究 科	哲学専攻	6					
		史学専攻	7					
		文学専攻	15					
	法学研究 科	法律・政策 学専攻	15					
	経済学研 究科	経済学専 攻	9					
	社会環境 科学研究 科	地域社会 環境学専 攻		12		6		
		国際社会 環境学専 攻		12		6		
合計		1,269	815	1,272	800	1,272	785	

附 則

この学則は，平成19年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 別表第一の規定にかかわらず、教育学研究科及び合計欄の収容定員については、平成21年度は、次の表のとおりとする。

研究科名	専攻名		平成21年度
教育学研究科	教育実践高度化専攻		35
	従前の専攻	学校教育専攻	10
		国語教育専攻	4
		社会科教育専攻	4
		数学教育専攻	4
		理科教育専攻	4
		音楽教育専攻	3
		美術教育専攻	3
		保健体育専攻	5
		技術教育専攻	5
		家政教育専攻	5
		英語教育専攻	4
障害児教育専攻	4		
大学院合計			1252

附 則

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第3条第1項の規定にかかわらず、自然科学研究科生命薬学専攻及び医療薬学専攻は、平成22年3月31日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 改正後の第30条第1項の規定にかかわらず、平成22年3月31日に在学する者については、なお、従前の例による。
- 4 改正後の別表第一の規定にかかわらず、自然科学研究科生命薬学専攻、医療薬学専攻、医学系研究科創薬科学専攻、法務研究科法務専攻及び合計欄の収容定員については、平成22年度及び平成23年度は、次の表のとおりとする。

研究科名	専攻名	平成22年度		平成23年度
		修士課程及び博士前期課程	専門職学位課程	専門職学位課程
自然科学研究科	生命薬学専攻	48		

	医療薬学専攻	16		
医学系研究科	創薬科学専攻	38		
法務研究科	法務専攻		105	90
大学院合計		1206	105	90

附 則

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

別表第一

入学定員及び収容定員

研究科名	専攻名	修士課程及び博士前期課程		医学博士課程及び博士後期課程		専門職学位課程	
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
教育学研究科	教育実践高度化専攻	35	70				
	計	35	70				
人間社会環境研究科	人間文化専攻	25	50				
	社会システム専攻	18	36				
	公共経営政策専攻	12	24				
	人間社会環境学専攻			12	36		
	計	55	110	12	36		
自然科学研究科	数物科学専攻	56	112	13	39		
	電子情報工学専攻	67	134				
	機能機械科学専攻	51	102				
	人間・機械科学専攻	40	80				
	物質化学専攻	26	52				
	物質工学専攻	53	106				

	攻						
	地球環境学 専攻	19	38				
	社会基盤工 学専攻	48	96				
	生物学専 攻	17	34				
	電子情報科 学専攻			15	45		
	システム創 成科学専攻			21	63		
	物質科学専 攻			17	51		
	環境科学専 攻			22	66		
	生命科学専 攻			30	90		
	計	377	754	118	354		
医学系研究 科	医科学専攻	15	30				
	脳医科学専 攻			20	80		
	がん医科学 専攻			26	104		
	循環医科学 専攻			22	88		
	環境医科学 専攻			12	48		
	創薬科学専 攻	38	76				
	保健学専攻	70	140	25	75		
	計	123	246	105	395		
法務研究科	法務専攻					25	75
	計					25	75
合計		590	1,180	235	785	25	75

別表第二

検定料等の額

区分	検定料	入学料	授業料
大学院	30,000円	282,000円	年額 535,800円
法科大学院	30,000円	282,000円	年額 804,000円
研究生	9,800円	84,600円	月額 29,700円
科目等履修生	9,800円	28,200円	1単位 14,800円
特別聴講学生			1単位 14,800円
特別研究学生			月額 29,700円